



科学の不思議を体感

7月4日(日)、青少年科学館で科学実験教室が行われ、午前中は小学校低学年の親子8組が参加しました。今回は、せんたく糊にホウシヤ液を加え、蛍光塗料で色付けたものと、酸化鉄を混ぜたものの2種類のスライム作りに挑戦。完成したスライムの触り心地を楽しんだり、磁石を近づけると、まるで生き物のように動く黒いスライムに、歓声が上がっていました。



氷の上で笑顔がいっぱい

7月3日(土)、みどりスポーツパークを会場に、市内の小学生を対象とした「カーリングスクール」が開かれました。指導員からの説明を受けた後、早速リンクへ移動し、氷上での歩き方や怪我をしない転び方、ブラシを持ってリンクを滑る練習など、悪戦苦闘しながらも終始笑顔でカーリングを楽しむ参加者たち、この中から未来のオリンピック選手が誕生すると嬉しいですね。



オンライン交流で絆を深める

港小学校では7月5日(月)、稚内市と友好都市である鹿児島県枕崎市の桜山小学校と、パソコンやテレビを活用しながらの交流会が行われました。今回の交流では、両校の5年生同士が社会科の授業の中でお互いの地域について学ぶ形で実施され、港小からは、方言クイズや寒い時期の暮らしなどについて、桜山小からは、夏場の気温、カツオや焼酎の特産品などについてそれぞれ発表し合い、交流の絆を深めていました。

ズームアップ



ベサニ先生、お世話になりました!

7月14日(水)、市教育委員会のALT(外国語指導助手)として6年間、子どもたちを指導してきたラーソン・ベサニ先生が、任期を終えアメリカへ帰国しました。帰国前の8日(木)に表教育長と工藤市長へ離任の挨拶を行ったほか、工藤市長からは、ALT退任後も友好関係を深めてもらう取り組みとして、総務大臣による「JET絆大使」の任命書が伝達されました。ベサニ先生は、「稚内の子どもたちと充実した日々を過ごさせてもらいました。いつかまた日本に帰ってきたい。」と話していました。



綺麗にお色直し!

7月10日(土)、トーダ塗装工業の社員が中心となって、はまなす2広場の遊具などの塗装ボランティアが行われました。このボランティアは5年前から毎年続けられているもので、遠田社長から「子どもたちの楽しく遊ぶ姿を想像して作業してください。」と挨拶があった後、早速、ブランコや滑り台などの塗装作業に汗を流していました。この塗装ボランティアは、来年以降も続けていくそうです。

7月10日(土)、風~る わっかないでダッチオープンを使った本格的なキャンプ料理講座が開催され、2組の親子を含む5人が参加しました。橋本生涯学習総合支援センター長が講師となり、ローストビーフづくりに挑戦。牛もも肉に下味を付け、木炭で熱したダッチオープンの底にさくらチップを敷き、牛肉のほかジャガイモやニンジンを入れ待つこと20分。完成した料理を試食した参加者たちは、家庭とは一味違う料理に満足気な表情を浮かべていました。



本格的なキャンプ料理を堪能

自分で打ったそばは格別



風~る わっかないで7月8日(木)、「そば打ち」の市民講座が開かれました。生涯学習推進アドバイザーとスタッフが講師を務め、「二八そば」に挑戦しました。参加者は講師のアドバイスを受けながら、水回し、練り、のし、切りの順番に作業を進め、ようやく完成。早速打ちたてのそばを茹でて試食し、自分で打ったそばの味に満面の笑みを浮かべていました。



会話を弾ませウォーキング

7月11日(日)、今年1回目となる「歩こう会」が開催され、9歳から86歳までの29人がウォーキングを満喫しました。動物ふれあいランドからメグマ沼の木道を巡る約4キロのコースを、会話をしながら沼地に咲くエゾカンゾウやヒオウギアヤメなどを見ながら、それぞれのペースで歩く参加者たちにも、笑顔の花が咲いていました。